

学校名 上里町立神保原小学校
所在地 児玉郡上里町神保原町814
電話 0495-33-3074

1 本校の概要

本校は明治19年に開校し、今年度135周年を迎える。学級数11学級、児童数228名の中規模校である。学校教育目標にある「心豊かな子・かしこい子・健康な子」の育成をめざしている。学校図書館としては、全校児童が1年間に1万冊読むことを目標としている。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- ・家庭、地域、公立図書館との連携

(2) 実践の概要

ア 図書委員会の取組

・読書週間

10月下旬から11月上旬の2週間実施。児童が1人5冊の本を借りると、図書委員児童から手作りの葉をプレゼントされる。図書委員は意欲的に葉作りを行っている。



読書週間中の児童朝会では、図書委員がプロジェクターを使って本の読み聞かせやクイズを行う。

・読書郵便

2月に行う読書郵便では、本の紹介を書いた葉書を友達に送る。学校図書館前のポストに入れられた葉書を、図書委員が各教室の郵便受けに配達する。自分のお気に入りの本を紹介したり、他学年の児童同士の交流をしたりすることができ、多くの児童が葉書のやり取りを楽しんでいる。



・雨の日の紙芝居

図書委員の児童が、日頃から練習している紙芝居の読み聞かせを行う。雨で外遊びに行けない児童が聞きに来て、楽しんでいる。

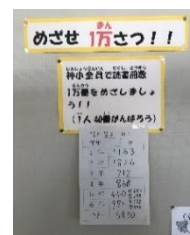
イ 図書館司書教諭の放送による本の読み聞かせ

コロナ渦の現在、黙食をしている児童に向けて、毎週金曜日の給食時に、図書館司書教諭が放送で本の読み聞かせを行っている。学校図書館にある本を読

むことで、児童が学校図書館に読み聞かせの本を探しに来るようになった。

ウ 「めざせ1万冊!!!」

1年間で全校児童が読む本の合計が1万冊となることを目標としている。毎週木曜日を3、4年生の全員貸出の日、金曜日を5、6年生の全員貸出の日と設定し、放送での呼びかけを行っている。毎月図書委員がクラスごとの読書冊数を発表し、指定冊数を読んだ児童には、表彰を行っている。毎週本を借りることが、習慣となっている。



エ 家庭、地域との連携

・親子読書

読書週間では、親子読書に取り組んでいる。毎日、①親が子に読み聞かせを行う。②子が親に読み聞かせを行う。③親子で一緒に読書をする。という3項目から1つを選び、各家庭で2週間の取組を行う。親子で読書をする時間を大切にするという意識付けとなっている。

・図書ボランティアによる読み聞かせ

月に1回、地域の方や保護者の方に本の読み聞かせをしていただいている。学年に合う本を準備していただき、児童は読み聞かせの日を大変楽しみにしている。



・町立図書館との連携

- ①各学期に1度の各クラスへの団体貸出
- ②年間を通しての並行読書の本の貸出
- ③読書週間のブックトーク

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ア 学校図書館に来る児童が増え、読書量が増えるとともに、いろいろな分類の本の貸出が増えた。
- イ 学校、家庭、地域、公立図書館とのつながりをもつことができた。

(2) 課題

児童やクラスによって、本の貸出冊数に差がある。全児童の読書冊数が増えるよう、教職員が連携し、読書活動を推進していきたい。